毎　日　新　聞　2009年（平成21年）1月12日（月）

被災者ら200人が神戸市内を歩く

8年ぶり、iウオーク

阪神大震災（95年）で大きな被害を受けた神戸市長田区を歩き、復興を支えたボランティア活動について考える「こうべｉ（あい）ウオーク」が11日、8年ぶりに開かれた。新潟県中越沖地震（07年）の被災地、柏崎市など各地から約200人が参加、阪神大震災から14年を迎える街並みを見て、復興のあり方などを考えた。

震災を契機に広がったボランティア活動を支援するため、参加者から寄付を募り、復興に取り組む市民団体などに助成する試み。

参加者はグループに分かれ、区内を約2時間歩いた。中越沖地震で自宅が半壊した柏崎市の三井田レイ子さん（61）は、自宅が全焼した長田区の被災者の話を聞き、「改めて地震の怖さを感じた。地元で更に防災に取り組みたい」と話した。

【辻加奈子、写真も】

阪神大震災から14年になる街並みを見て歩く「こうべｉウオーク」参加者ら